

日本には、現在約五〇種類の税金があります。その中で、僕が一番意識するのは消費税です。値札に記載された税抜き価格を目にすると思わずため息が出てしまいます。国の財源である税金を国民が負担することは、頭では理解できても税金の無駄遣いのニュースを耳にする度、僕の感情が税に対するマイナスイメージを払拭できずにいました。

先日、僕は街づくりゲームを買いました。このゲームは、自分が市長になって街を築いていくもので、行政システムや社会現象が忠実に再現される本格的なゲームです。まず僕が目指したのは、生活環境が整った市民の幸福度が高い街です。しかし、僕が思い描いた理想の街づくりは上手くいかず、苦戦を強いられた結果、財政破綻を招きゲームオーバーになってしまいました。僕の街の一体何がいけなかったのだろうか。

僕は、最初に資金不足に陥った原因を考えました。街をつくるためには、インフラの建設だけでなく警察や消防、教育などの公共サービスも市民に提供しなければいけません。しかし、僕はぜい沢ができる生活の方が市民は幸せだろうと考え、税金を極力低く設定し、積極的な税金の徴収を行いませんでした。個人の豊かな生活に配慮したつもりが、結果的には資金不足から財政破綻を招きまさに本末転倒でした。そこで、僕はゲーム内の出来事が現実世界で起きたらどうなるか想像してみました。税金の徴収が無ければ、市民の一時的な喜びは得られるでしょう。しかし、財源が無ければ公共サービスは市民に提供できなくなります。警察のいない世界では犯罪が多発し、消防が機能しなければ火事は延焼してしまう。ごみを収集する人がいなければ街は不衛生になる一方だし、学校が無ければ僕たちの学びの場が失われてしまう。従って、公共サービスは僕たちの生活環境の維持や治安を守るためにも必要不可欠なのです。僕は、税率を上げてゲームに再チャレンジしました。すると、市民の負担は増えましたが財政は安定し、公共サービスも維持できるようになりました。税金は、一見すると不満対象になりやすいかもしれませんが、僕は目先の幸せより長期的な幸せを考えるべきだと思いました。そして、税金の流れや役割をみんなが正しく理解することが何よりも大切だと思いました。

二〇二三年世界幸福度ランキングの一位は、六年連続でフィンランドでした。一方、日本は四七位でした。標準消費税は、フィンランドが二四%で日本より高いにも関わらず、国民の幸福度が得られるのは、社会保障制度が充実しているからだと思います。また、国民が税金の役割を理解し、納得できているからだと思います。今後、日本も少子高齢化の未来に向けて社会保障制度の充実を図ることが必須です。僕は、税金をきちんと納め日本の未来を支えられる大人になりたいと思います。